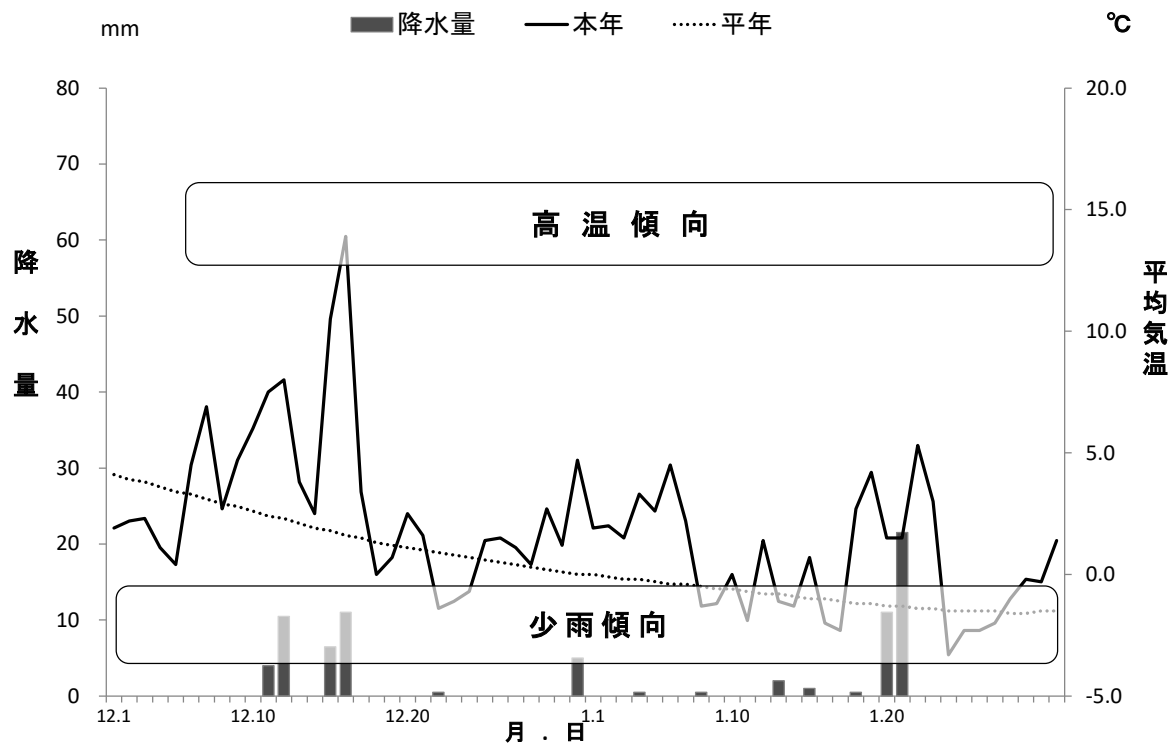


令和6年 作物技術情報第2号

(2月初旬の麦の生育状況と1回目の追肥作業について)

1 気象状況

令和5～6年 気象経過(穂高アメダス 12月1日～1月31日)



・ 12月初旬以降の平均気温は高温傾向で推移しています。また降水量は少ない状況です。

・ 2月8日気象庁発表の1か月予想では、気温は平年より高いと予想されています。

2 2月初旬の麦の生育状況

- ・ 10月下旬播種の生育量は過剰～やや過剰で、大麦では葉の黄化が目立つ圃場もあります。
- ・ 11月上旬播種の生育量はやや過剰～並です。
- ・ 11月中旬播種の生育量は並～やや少です。
- ・ 11月下旬播種の生育量は少なく、葉令も2～3葉です。特に11月25日以降の播種圃場は葉令が2葉程度で、生育量はかなり少ないです。
- ・ 今後も高温が予想されているので、今後の生育はさらに進むと思われます（昨年並みが予想されます）。
- ・ 「東山55号（しろゆたか）」「ゆめかおり」は葉幅が狭く、茎が細く、葉色も淡いため「ゆめきらり」から品種転換された場合は、生育がさみしく感じるかと思いますが、品種の特徴なのでご安心ください。

表1 越冬後の生育状況（1月31～2月2日調査）

播種日	分けつ	茎数 (m ²)	生育量
10月下旬	3	700～1000本	過剰～やや過剰
11月上旬	2	400～700本	やや過剰～並
11月中旬	1	300～400本	並～やや少
11月下旬	0	200～300本	少

3 麦の追肥作業について

～～2回の追肥が麦栽培の基本です～～

- 1回目の追肥：越冬後～茎立期追肥（2月末～3月）
目的は茎数確保→穂数確保→収量確保です
- 2回目の追肥：止葉展開期追肥（4月末～5月上旬）
目的は粒の肥大・タンパク向上による品質向上です。

表2 追肥時期別の追肥効果

追肥時期	生育回復	茎数増加	穂数増加	1穂着粒数	収量向上	粒の肥大	タンパクの向上	空洞粒の減少	倒伏増加
越冬後	◎	◎	◎	△	◎	—	—	△	●
幼穂形成期	△	○	○	○	◎	—	—	△	●
茎立期	—	△	△	○	◎	△	△	△	▲
止葉展開期	—	—	—	△	△	◎	◎	○	—

注)◎:効果大、○:効果やや大、△:効果あり、—:効果なし、●▲は悪影響

(1) 1回目の追肥時期と追肥量について

- 1) 「越冬後の1回目の追肥」は穂数確保（収量確保）のために重要です。
- 2) 越冬後の生育量と越冬後1回目の追肥時期・量については表3や、越冬後の麦生育チャート「越冬後㎡当茎数と1回目追肥時期・量の目安」を判断の目安としてご活用ください（支援センターのホームページにも掲載してあります）。
- 3) 近年、2～3月の気温が高くなり、追肥時期の生育量（茎数）が2月初旬の生育状況よりかなり多くなってしまいう年があります（例：令和2年春、令和5年春）。このため、2月下旬以降に圃場を再度観察していただき、麦の生育量にあわせた追肥をお願いします。
- 4) 2回目の追肥は、大麦やめん用小麦の場合は止葉展開期の生育状況（茎数）に応じて、窒素成分で2～3kg/10aを施肥します。
また、パン用品種「ゆめかおり」は出穂～開花期に窒素成分で4～5kg/10aを施肥します。
2回目の追肥時期と追肥量については、3月以降の技術情報でお伝えします

表3 越冬後の生育量と麦の1回目追肥時期・量の目安

生育状況	越冬後の茎数 (2月中旬～3月上旬)		追肥時期 追肥量 N:kg/10a (硫安kg/10a)		追肥の目的及び効果
	見た目	㎡あたり茎数			
極少	2葉程度 (出芽したが分げつしていない)	200本以下	2月末 N 4～5 (20～25)		追肥量を増やし、時期も早めて茎数を増やす → 穂数確保
			または 2月末 N 2～3 (10～15) 3月中旬 N 1～2 (5～10)		
少ない	3cm幅位の帯状 所々とぎれている	200～300本 前後	3月初旬 N 4 (20)		追肥量を増やし、時期も早めて茎数を増やす → 穂数確保
やや少ない	3cm幅位の帯状	300～400本 前後	3月上旬 N 4 (20)		追肥量を増やし、時期も早めて茎数を増やす → 穂数確保
並	5cm幅位の帯状 所々とぎれている	400～600本 前後	3月上～中旬 N 3 (15)		適正穂数確保と穂の充実
やや多い	5cm幅位の帯状	600～800本 前後	3月上～中旬 N 2 (10)		適正穂数確保と穂の充実
多い	10cm幅位の帯状	800本以上	3月中旬 N 1～0 (5～0)		追肥量を減らし、時期も遅らせる。 場合によっては追肥しない。 → 茎数過多・過繁茂の抑制

(2) 麦追肥1発肥料・一施肥二鳥を用いた省力栽培と注意点

～～2回目の追肥を省く省力体系です～～

	施肥体系	◎ 1回目の追肥(10a当) (越冬後 3月上中旬)	◎ 2回目の追肥(10a当) (止葉展開期:4月末～)
慣行体系	基肥 BB or エルちゃん + 慣行追肥 体系	N 2～4kg 硫安 10～20kg	N 2～3kg 硫安 10～15kg
省力体系	基肥 BB or エルちゃん + 麦追肥一発 体系	N 6 麦追肥一発肥料 20kg	まかない
省力体系	基肥 一施肥二鳥 + 追肥 1 回 体系	N 2～3kg 硫安 10～15kg	まかない

注) 上表のN(窒素量)は「大麦・めん用品種」の場合です。

パン用品種「ゆめかおり」の場合は、追肥一発肥料は30kg/10a施用してください。

1) 麦追肥一発肥料を使用する場合の注意点

A 大麦・めん用小麦の場合

越冬後の生育量	越冬後の茎数(m ²)	生育早期回復の追肥	追肥一発の追肥	2回目の追肥 (止葉展開期:4月末～)	備考
多 (倒伏の恐れ高い)	800本以上 (畝間見えない)	まかない	追肥時期(3月下旬) N 3 麦追肥一発肥料 10kg	まかない	慣行追肥体系に変更することが望ましい
やや多	600～800本	まかない	追肥時期(3月中～下旬) N 4.5 麦追肥一発肥料 15kg	まかない	
並～やや小	400～600本	まかない	追肥時期(3月上～中旬) N 6 麦追肥一発肥料 20kg	まかない	
小～極小	300本以下	追肥時期(2月下旬) N 3～4kg 硫安 15～20kg	追肥時期(3月中旬) N 4.5 麦追肥一発肥料 15kg	まかない	

- ① 生育過剰な圃場(畝間が見えないような圃場:茎数800本/m²以上)
 - ・倒伏の恐れがあるので、慣行追肥体系とすることが望ましいと思われます。
 - もし追肥一発肥料を使用する場合は、施肥量を減らして、追肥一発肥料で10kg/10aとし、施肥時期も通常より遅らせて、3月下旬としてください。
- ② 過剰気味な圃場(茎数600～800本/m²位)
 - ・追肥一発肥料の量を減らして15kg/10aとして、施肥時期も通常より遅らせて、3月中～下旬としてください。

- ③ 生育が並～やや少ない圃場（茎数 400～600 本／㎡位）
- ・追肥一発肥料は基準量（20kg／10a）を施肥してください。
施肥時期は生育量に応じ、茎数が並の場合は3月中旬、やや少ない場合は3月上旬としてください。
- ④ 生育が小～極小な圃場（茎数 300 本／㎡未満 分けつしていない）
- ・まず、茎数早期回復用の追肥を2月下旬に硫安で15～20kgを施肥してください。
その後3月中旬に、麦一発追肥を15kg／10aを施肥してください。

B パン用小麦「ゆめかおり」の場合

越冬後の生育量	越冬後の茎数(㎡)	生育早期回復の追肥	追肥一発の追肥	2回目の追肥 (出穂～開花期:5月上旬)	備考
多 (倒伏の恐れ高い)	700本以上 (畝間が不明瞭)	まかない	追肥時期(3月末) N 4.5 麦追肥一発肥料 15kg	まかない	慣行追肥体系に変更 することが望ましい
やや多	500～700本	まかない	追肥時期(3月中～下旬) N 6 麦追肥一発肥料 20kg	まかない	
並～やや小	400～500本	まかない	追肥時期(3月上～中旬) N 9 麦追肥一発肥料 30kg	まかない	
小～極小	300本以下	追肥時期(2月下旬) N 3～4kg 硫安 15～20kg	追肥時期(3月中旬) N 4.5～6 麦追肥一発肥料 15～20kg	まかない	

- ① 生育過剰な圃場（畝間が見えないような圃場：茎数 700 本／㎡以上）
- ・倒伏の恐れがあるので、慣行追肥体系とすることが望ましいと思われます。
もし追肥一発肥料を使用する場合は、施肥量を減らして、追肥一発肥料で
15kg／10aとし、施肥時期も通常より遅らせて3月末としてください。
- ② 過剰気味な圃場（茎数 500～700 本／㎡位）
- ・追肥一発肥料の量を減らして20kg／10aとし、施肥時期も通常より遅らせて
て、3月中～下旬としてください。
- ③ 生育が並～やや少ない圃場（茎数 400～500 本／㎡位）
- ・追肥一発肥料は基準量（30kg／10a）を施肥してください。
施肥時期は生育量に応じ、茎数が並の場合は3月中旬、やや少ない場合は3月上旬
としてください。
- ④ 生育が小～極小な圃場（茎数 300 本／㎡未満 分けつしていない）
- ・まず、茎数早期回復用の追肥を2月下旬に硫安で15～20kgを施肥してくだ
さい。
その後3月中旬に、麦一発追肥を15kg／10aを施肥してください。

2) 基肥に一施肥二鳥を使用した場合の注意点

越冬後の追肥をしないと茎数（穂数）不足で減収する場合があります。茎数（穂数）確保のために、越冬後の生育状況にあわせた追肥をお願いします。

追肥時期・追肥量については下表を参考にしてください。

【品種：大麦、めん用小麦】

越冬後の生育量	越冬後の茎数(m ²)	茎数確保の追肥	2回目の追肥 (止葉展開期:4月下旬~)	備考
多 (倒伏の恐れ高い)	800本以上 (畝間見えない)	追肥時期(3月中旬) N 0~1kg 硫安 0~5kg	登熟向上のため N 1kg 硫安 5kg	茎数確保の追肥は行わないことが望ましい
やや多	600~800本	追肥時期(3月上旬) N 1~2kg 硫安 5~10kg	まかない	
並~やや小	400~600本	追肥時期(3月上旬) N 2~3kg 硫安 10~15kg	まかない	
小~極小	300本以下	追肥時期(2月下旬) N 3~4kg 硫安 15~20kg	まかない	

3) 追肥に関するその他の注意事項

1) 過繁茂で著しく黄化している場合で、1回目追肥まで間がある場合は、葉色回復を目的として、1回目追肥とは別に、硫安でN 1kg / 10a程度を施肥してください。

2) 「しゅんよう」「ゆめかおり（パン用品種）」は茎数が増えやすい品種なので、施肥量には注意して下さい。

多追肥 → 茎数過多 → 穂数過多 → 倒伏
→ 登熟不良

3) 塩安を使用する場合、硫安より窒素成分が高い（25%）なので、まき過ぎに注意して下さい。

N5kg→塩安 20kg、 N4kg→塩安 16kg、 N3kg→塩安 12kg、 N2kg→塩安 8kg
硫安 25kg →硫安 20kg →硫安 15kg →硫安 10kg

4) 積雪時の麦追肥について

① 基本的には、雪がとけて麦の生育状況を見てから、追肥時期・量を判断して追肥してください。

積雪で判断が難しい場合は播種時期と麦生育チャートをご参考ください。

- ② 雪どけを待つと追肥時期を逃す場合や、雪どけのぬかるみや停滞水で、施肥作業が困難になる場合は、圃場状況を見て作業が可能なら、多少の積雪があるうちに追肥を行っても差し支えありません。

この場合、圃場での播きムラにご注意ください。また、積雪中での作業になるので、用水路や圃場への転落・転倒に十分注意して作業してください。ブロードキャスター等で追肥作業する場合は、雪や土が締まっている午前中に作業してください（作業時のぬかるみ防止）。

4 湿害対策

- ・ カミ雪のように一時的な大雪の場合は、その後の降雨や気温上昇に伴い、一気に融雪して圃場が湛水してしまう場合があります（写真）。
このような圃場は湿害を受けやすくなります。これからカミ雪の季節を迎えるので注意が必要です。
- ・ 水口は閉まっているか（水路からの雪解け水の流入防止）、排水口は開いているか、排水路はつまっていないか（圃場の停滞水防止）を今一度確認していただき、湿害対策に万全を記していただくようお願いします。

